

福井県民の将来ビジョン 地区別意見交換会 (二州(敦賀市、美浜町))意見交換概要

〔人づくり〕〔コミュニティづくり〕〔環境〕

- 人づくりは子どもの頃から取組んでいかなければならない。親の日頃の態度が大事である。私の親は私が子どもの頃、毎晩、仏さんを拝んでいた。家庭におけるしつけ、親の在り方も大事。
- 人づくりは家庭が大事だと考える。生活の中でも食生活の習慣が大事である。食生活の習慣が身についた子どもは、しっかりした感覚を持つ大人になる。
- 土日、ソフトボール、サッカーなどのスポーツ少年団の中に親がリーダーとなってしつけを教えているはずである。家庭も大事だが、外でしつけを学ぶことも大事。スポーツ指導者の研修システムも必要ではないか。
- 小学校の見守り隊を数年務めている。また、放課後学童教育にも関わっているが、子どものあいさつができていないと感じる。感謝の気持ちがないのである。あいさつのできる子どもになって欲しい。あいさつは先手必勝ぐらいの感覚が必要。
- 学力、体力が全国トップレベルだが、将来に夢を持つ子どもになって欲しい。子どもたちが目標を持てる地域や人の例があるとよい。敦賀(地元)のことが好きでまちに自信を持つ子どもになって欲しい。
- 美浜で建設業を営んでいるが、昨今、公共工事が激減している。民間に仕事があるかは疑問であるが、地域の求めているものが何か、話せる場があるとよい。
- ふるさとを思う都会の方をターゲットにインターネットを利用して、所有する「家屋・休耕田」の状況を報告するサービスの提供を始めた。状況を報告する中で、補修、修繕など仕事の受注や、空き家の提供ができればと考える。
- 人づくりに関しては、いい意味での田舎化が必要ではないか。将来の発展と矛盾しないようなバランスが必要で、行政の役割に期待している。
- 人づくりは一人ひとりの置かれている環境によって違う。子どもの頃から伝統芸能を学ぶのがよいかは疑問が残る。
- 他県から嫁いできた場合、嫁ぎ先の地域性に理解を示さないことが多い。このような場合、二世帯家族を強制的に一世帯の大家族にしてもうまくはいかない。
- 福井県民はモノの豊かさより心の豊かさを重視し、家族とのふれあいを大事にしたいとする傾向がある。
- 高齢化が進み、三人に一人が老人になると、介護は、在宅か施設かの根源的な問題が出てくる。福井県らしさを追求するならば在宅型が基本的なパターンになると思うが、地域力、新しい公共という精神を目標とすることが福井型の医療・介護のビジョンになるのではないかを思う。

- 資料に「元気な高齢者を増やす」とあるが、「高齢者の元気を増やす」ではないか。
- 私が住む集落では、福祉の中に防災と環境を含め、安全安心に暮らせる地域づくりに取り組んでいる。
- これからの福祉は、行政がカバーできないところを住民の協働で進めることが大事。即ち地域力を活かすべきである。
- 増加する高齢者のために空き家を活用し、たまり場にできないか。それを放課後児童クラブのようにすると地域を活性化できるのではないか。ぜひ、行政の支援をお願いしたい。
- 私は奨学資金貸与制度を受けており、安心して勉強ができて、とても感謝している。後輩のために今後もこの制度を継続して欲しい。
- 介護の現場は低賃金で家庭を持って養っていけるのか不安である。安心して働けるよう賃金の見直しを考えて欲しい。
- 介護で働く後継者育成のために、学校で福祉の授業を増やすべきある。
- ずっと介護の仕事を行っていきたいと考えているが、結婚後、出産、育児をするうえで、安心して働ける環境づくりが必要であり、改善して欲しい。

〔まちづくり〕

- 福井県としてみた場合、新幹線にしても、原子力発電にしても、いまだに嶺北、嶺南の温度差を感じる。嶺北、嶺南が一体となって進められるようなことが必要。
- 美浜で旅館を営んでいる。福井県の宿泊施設数は人口当たり全国第2位であるが、主軸産業として捉えられていない。
- 交通アクセスは手段であって、それだけでは、人はこない。観光の推進には基盤となる施設、観光地、街並みが必要である。
- 敦賀に転勤して来られる方がたくさんいるが、自信を持って友人を呼べるような場所があると良い。また、敦賀にいた人が再び敦賀に来てくれるような地域になればよい。
- 気比神宮には二千年の歴史があり、私たちの知らない魅力がまだ残っている。例えば、一番古い桃太郎の絵が昔、気比神宮の柱に彫られていたことが話題になっている。気比神宮自体が中心市街地活性化の柱になっても、全国的にも十分通用する。
- JR直流化により一時的に観光客数が増えたが、現在、尻すぼみになっている。新快速の運行ダイヤが利用者にとって満足できるものではなく見直しが必要である。今は金沢支社管轄であるが、敦賀まで本社管轄になるとよい。(ダイヤ改正の要望が通り易い)
- 敦賀は京都から通学圏内である。サンダーバードの定期で月5万円程度。下宿するよりずっと安い。特急でなくても、新快速のダイヤを充実させればよい。
- 美浜町で民宿を営んでいるが、平成10年頃から観光客が減っている。道路が良くなり日帰り客が多くなった。

- 美浜町にはこれという味覚がないため、四人のおかみが集まって伝統のあるへしこ作りに頑張っている。
- 年間へしこ30万本を生産しているが、昔はさばが安かったが、今、消費者からへしこが高いと言われる。さばがもっと安く手に入らないか考えて欲しい。

〔産業〕

- 耕作放棄地が増加し、豊かな自然が無くなることを危惧したことが、農事組合法人を設立したきっかけで、地元の小学生や高齢者に参加していただいたり、都会からの農業体験を受け入れ交流を図ることによって和が広がっていった。
- 何事にも他人に頼らず、まず自分に何ができるのか考え、出来ることから実践していくことが大事である。失敗もあるが学ぶことも多い。それをクリアしていけば新しいまちづくりに繋がる。
- 民宿経営と漁業を行っているが、道路が良くなりすぎて敦賀を通過していく人が増えるのではないかと。半島ごとに温泉を作ってはどうか。冬にふぐ、カニなど美味しいものと結びつけて通ってもらうのがよい。
- 敦賀新港の整備が進んでいるが、港がよくなればなるほど防波堤の延伸により、魚が湾岸へ入ってこない。また、波の流れが変わり浜の侵食が進んでいる。港の繁栄も大事だが、我々漁業者のことも考えて対応して欲しい。